

第20回 市長対談

災害に強いまちづくりを目指して



宮城県亘理郡山元町長
齋藤 俊夫さん

津市長前葉 泰幸

平成26年11月22日、宮城県亘理郡山元町の齋藤俊夫町長を訪問し、東日本大震災発生からこれまでの復興状況などについて、前葉泰幸市長がお話を伺いました。

市長 齋藤町長と私とは宮城県庁勤務時代からの旧知の関係です。市長就任直後の平成23年6月に山元町を訪問、震災被害の大きさを目の当たりにして同年10月から職員の応援を始め、これまで延べ16人を派遣してきました。三重県からは津市を含め現在10人が被災地で応援職員として働いていますが、復旧復興のためには、継続して多くの人手が必要だと思えます。現在の状況はいかがですか。



齋藤 前葉市長には、震災直後にいち早く山元町にお越しいただき、たくさんの激励を頂戴するとともに、津市職員を派遣していただき大変感謝しています。震災前の山元町の一般会計予算の規模は約50億円でしたが、震災後の平成24年度は約13倍、25年度は約10倍に増大しました。しかし、これだけの復興事業をこなすマンパワーの数は圧倒的に少なく、大変なミスマッチの状態となっています。

震災から3年8カ月が経った今も、仮設住宅で不自由な生活を強いられている方々が1,000世帯、約3,000人もおられ、町の復興再生に向けた事業が山積している状況にあります。山元町職員181人に対し、宮城県内や津市をはじめとする全国各地から、平成26年9月現在で116人もの皆さんに応援職員として山元町で勤務いただき、おかげさまで県内の被災地よりも比較的